

メルセデス・ベンツに乗る喜び・愉しさをこの1冊に凝縮

AUTO MESSE
AMWW
WORLDWIDE

only オンリーメルセデス Mercedes

2025年12月1日発行・発売
第29巻 第1号 通巻259号

1

JANUARY
2026
Vol.226



ライバルは皆無

AMG伝説

Hammerから始まるAMGの魅力



進化するAMGを紐解く
CONCEPT AMG GT XX



ジャパンモビリティショー2025

Mercedes-Benz GLC with EQ Technology
Mercedes-Benz CLA with EQ Technology
Mercedes-Maybach SL Monogram Series
Mercedes-Benz Vision V
メルセデスの次なるターゲットを知る



NEW CAR IMPRESSION

Mercedes-AMG GT 53 4MATIC+ (ISG)
Final Edition

世界限定20台の
オフィシャルレーシングクラブ

Mercedes-AMG
GT2 PRO



SHOP COORDINATION CAR

MB works Mercedes-AMG CLE 53

問：MBworks tel.075-201-4559
https://www.benz-kyoto.jp
文／村田純也 写真／稲田浩章
text by MURATA Junya photos INADA Hiroaki

MBworks

Produced by GLOBAL



エンブレムはキャンディブラック、グリルなどはグロスブラックでカラーコーディネートしたフェイス周り。マットボディで輪郭がぼやけてしまう素地はすべてグロスカラーとした

H&Rダウンサスで引き締めた足もとには、グラマラスフェンダーが際立つ10J&12Jでハイパーフォーゾドのメッシュデザインをインストール

オリジナリティ注入とともに素材の魅力を高めあげていくスタンスでデモカー製作やユーザーカーのカスタムへ取り組むMBワークスの西村代表。カスタムパーツが数少ないCLEは本国オプションも駆使してブラッシュアップした

「なんだコレ、カッコ悪い……」。本国仕様のカタログを見てオーダーしたCLE53にアンバランスなメッキが多用されていたことからMBワークスの西村代表が迷わず取り組んだのは、グラファイトグレーマグノのボディに合わせたブラックコーデだ。もちろん、単にメッキパーツを黒尽くめにしてしまうのではなく、透け感や艶といった質感の違いの演出で細やかなメリハリも効かせてアプローチ。インナーブラックのヘッドライトはクリアのプロ

テクションフィルムといった細やかな配慮で、素材の良さが際立つ『黒の塊』へと仕上げてきた。なお、リアディフューザー下の物足りなさを払拭するためにあしらった本国オプションのリアアンダーにあわせ、フロント＆サイドはマクストンでアレンジ。躍動感とともに全方位へ整ったボトムラインもしっかりと見せつけているのが見逃せない。まさにメルセデスの魅せワザを熟知した専門店ならではの一台と言えるだろう。



直線的に走るボトムを備え、内巻きデザインのバンパーでボリュームあるフェンダーばかりが際立っていたスタイルをスポーティに洗練。ちなみにドアミラーなどはラッピングだが弾薬に触れるドアノブはペイントと、同じグロスブラックでもフィニッシュが変えられている

質感違いを極めた至高のブラックコーデ



小ぶりでも鋭角な立ち上がりで存在感を発揮するトランスポイラーは本国オプション。リアアンダーも同様だが、ディフューザー下のみカバーするショートを経てトータルバランスが高まるロングへ変えている。このデモカーのためにマットブラックのステッカーを用意するなど、細部まで同系色の質感違いを突き詰めた